

令和8年度

# シラバス

(年間指導計画)

静岡県東部総合美容専門学校

## 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

実務経験のある教員等による授業科目一覧表

(衛生専門課程美容学科) 令和8年度															
分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規・制度	衛生行政・美容師法など美容師と関係法規について学ぶ	1通	30	1	○			○		○		
○			衛生管理	公衆衛生・環境衛生・感染症・消毒法などについて学ぶ	1・2通	90	3	○			○		○		
○			保健	人体の構造及び機能、皮膚科学、疾患について学ぶ	1・2通	90	3	○			○		○		
○			文化論	美容の歴史、美容デザインについて学ぶ	1・2通	60	2	○			○		○		
○			美容技術理論	美容の基礎的理論から様々な美容についての目的や注意点などを学ぶ	1・2通	150	5	○			○		○		
○			運営管理	サロン経営に必要な接客技術、労務管理、マーケティングなどを学ぶ	2 1.2	30	1	○			○		○	○	
○			美容実習	シャンプー、カット、ワインディングなど美容師として必要な基礎的技術からメイク、ネイルなど様々な技術を習得する。サロンワークの流れを知る	1・2通	900	30			○	○	○	○	○	
	○		美術・デッサン	パーソナルカラーの理解、スタイル画を学ぶ	1・2通	120	4	○	○		○		○	○	
	○		栄養理論	健康や美を保つための栄養素について基本を学ぶ	1通	60	2	○			○		○		
	○		エステティック・着付	エステティック概論、フェイシャルエステ基礎技術の習得、着付け概論から、浴衣、留袖を着せられる技術を習得	1通	60	2	○		○	○		○		
	○		総合技術	ヘアケアの知識、福祉美容について学ぶ	1通	60	2	○		○	○		○	○	
	○		総合技術ABCDコース	より深く学習したい、専門的な技術を身につけたいコースを5コースの中から選び、コース別に行われる授業で技術の習得を目指す	2通	120	4	○		○	○		○	○	
	○		選択S	国家試験課題や様々な美容技術ができるようになる。	2通	60	2	○		○	○		○	○	
合計				13科目	1830単位時間(61単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年において、本校の規定している必修科目及び選択必修科目の授業を履修し、筆記・実技全ての試験に合格していること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	16週

## 昼間課程教育課程及び授業時数

## 昼間課程教育課程及び授業時数(2年生用)

【衛生専門課程美容学科】

	課 目	標準時数 (2か年)	学校授業時数(2か年)			備 考		
			1年	2年	計			
必修 課 目	関係法規・制度	30	31		31			
	衛生管理	90	31	62	93			
	保健	90	62	31	93			
	化粧品化学	90	31	31	62			
	文化論	60	31	31	62			
	美容技術理論	150	93	62	155			
	運営管理	30		31	31			
	美容実習	900	451	479	930			
	計	1410	730	727	1457			
	学校選択課目名	標準時数	1年	2年	計	備 考		
選 択 課 目	美術・デッサン	600	76	48	124			
	美容教養基礎		62	62	124			
	栄養理論		62		62			
	エステティック着付		62		62			
	総 合 技 術		選 択 A	62	62	124	186	選択
			選 択 B					
		選 択 C						
		選 択 D						
	選 択 S		62	62	62	必修		
	計	600	324	296	620			
合 計		2010	1054	1023	2077			

## 昼間課程教育課程及び授業時数(1年生用)

【衛生専門課程美容学科】令和8年度

	課目	標準時数 (2か年)		学校授業時数(2か年)						備考			
				1年		2年		計					
		単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間		単位	時間	
必修 課 目	関係法規・制度	1	30	1	30			1	30				
	衛生管理	3	90	1	30	2	60	3	90				
	保健	3	90	2	60	1	30	3	90				
	化粧品化学	2	60	1	30	1	30	2	60				
	文化論	2	60	1	30	1	30	2	60				
	美容技術理論	5	150	3	90	2	60	5	150				
	運営管理	1	30			1	30	1	30				
	美容実習	30	900	15	450	15	450	30	900				
	計	47	1410	24	720	23	690	47	1410				
学校選択課目名		標準時数		1年		2年		計		備考			
		単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間				
選 択 課 目	美術・デッサン	20	600	2	60	2	60	4	120				
	美容教養基礎			2	60	2	60	4	120				
	栄養理論			2	60			2	60				
	エステティック・着付			2	60			2	60				
	総合技術			2	60	4	120	6	180	6	180	選択	Aヘアメイクコース Bネイルコース Cブライダルコース Dエステティックコース
	選択A											必修	*フインディング、オールウェーブ*セッティング等
	選択B												
	選択C												
選択D													
選択S	2	60	2	60	2	60	2	60					
計	20	600	10	300	10	300	20	600					
合計		67	2010	34	1020	33	990	67	2010				

## 年間指導計画(シラバス)

教科名		対象学年	開講学期	区分
関係法規・制度		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
加瀬川 和夫			講義	1 (30)
実務経験	実務経験内容			
有	法学部卒業後、現役美容師としてサロンを経営している			
科目概要				
美容師として遵守すべき美容師法、衛生法規について学ぶ				
学習到達目標				
法制度の社会的意義と、美容師として遵守すべき美容師法および美容に関する衛生法規を具体的事例を通じて学習し、理解できるようにする。美容師国家試験の問題が解ける学力をつける。				
評価方法				
定期試験(筆記)の他に、授業時のワークシートの完成、授業へ積極性を考慮し、出席点8、ワークシート点16、テスト点76の合計100点中60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回
4	第1章 法制度の概要	社会規範と法制度の概説		1~4
	法の形式	憲法と法律・命令・条例の関係についての概説		
5	第2章 衛生行政の概要	衛生法規の体系の解説		5~8
	衛生を担う行政機関	保健所の業務内容の解説		
6	第3章 美容師法	美容師法の目的の概説		9~12
	美容師法の体系	憲法の理念と美容師法の関係についての解説		
7	美容の定義	法律用語としての美容の意味の解説		13~14
8	美容師とは何か	美容師の定義とその資格の解説		15
9	美容師養成施設	美容師養成施設の役割の解説		16~17
	美容師の免許と登録	美容師免許と登録制度の解説		
10	管理美容師	管理美容師の資格とその責務の紹介		18~20
	美容師の義務	美容師の業務上の義務の解説		
	美容所の開設	開設時に届け出をする諸事項の解説		
11	開設者が講ずべき衛生措置	開設者の義務の紹介		21~22
	美容所以外での義務	美容を行う場所の開設		
12	立ち入り監査	立ち入り検査への対応についての解説		23~25
	違反者に対する行政処分	各行政処分に関する解説		
1	罰則	美容師法第18条の詳説		26~27
	第4章 関連法規	生衛法の解説		
2	美容組合	美容組合に関する解説		28
	地域保健法	保健所と美容所の関わりについての解説		29
	労働法	開設者または従業員としての心構えの解説		30
教科書	日本理容美容教育センター発行「関係法規・制度」、法令集			
使用教材	教科書、授業毎に配布するワークシート			
留意点	各種規範の社会的背景も理解すること			

教科名		対象学年	開講学期	区分
衛生管理		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
加瀬川 和夫			講義	2(62)
実務経験	実務経験内容			
有	現役美容師として10年以上従事			
科目概要				
公衆衛生、環境衛生を学び、美容所における消毒の意義を理解し、実践方法を学ぶ科目である				
学習到達目標				
美容業に関連する衛生措置、具体的な消毒方法を理解して身につけることができ、美容師国家試験の関連問題が解けるだけの学力をつける。				
評価方法				
定期試験(筆記)76点の他、出席8点、授業への積極性16点を加味して、計100点中60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回
4	第3編 感染症	細菌とウイルスの構造を知る		1~6
	感染症の予防 感染症各論	概念用語の説明 具体的な感染症の詳説		
	具体的な対策の例	美容所での消毒作業を知る		
5	第4編衛生管理技術 消毒に関する法	消毒の概説 消毒に関する法規の紹介		7~12
	消毒法の種類 理学的消毒法	消毒法の種類の紹介 理学的消毒法の解説		
6	化学的消毒法 希釈法	化学的消毒法の解説 水溶液の作り方の解説		13~18
	器具の種類と消毒法	適性な消毒方法の選択		
7	第5編衛生管理の実践例	具体的な衛生管理技術の詳解		19~22
8	公衆衛生の総復習	公衆衛生の重要事項の確認		23~24
9	環境衛生の総復習	環境衛生の重要事項の確認		25~30
10	感染症総論	感染症総論の重要事項の確認		31~36
11	感染症各論	感染症各論の重要事項の確認		37~42
12	消毒法総論	消毒法の総論の重要事項の確認		43~48
	希釈法	希釈するための計算練習		
1	国家試験対策	公衆衛生関連の過去問題の傾向と対策		49~54
		公衆衛生関連問題の要点整理		
		環境衛生関連の過去問題の傾向と対策		
		環境衛生関連問題の要点整理		
		感染症関連の過去問題の傾向と対策		
2		感染症関連問題の要点整理		55~60
		消毒法関連の過去問題の傾向と対策		
		消毒法関連問題の要点整理		
		模擬問題を使った演習		
			61,62	
教科書	日本理容美容教育センター発行「衛生管理」			
使用教材	授業ごとに配布するワークシート			
留意点	国家試験対策も随時行う。			

教科名		対象学年	開講学期	区分
衛生管理		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
加瀬川 和夫			講義	1(30)
実務経験	実務経験内容			
有	現役美容師として10年以上従事			
科目概要				
公衆衛生、環境衛生を学び、美容所における消毒の意義を理解し、その実践が可能になる。				
学習到達目標				
美容所における衛生措置、消毒方法を理解し、実践できるようになる。				
評価方法				
定期試験(筆記)76点の他、出席8点、授業への積極性16点を加味して、計100点中60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回
4	第1編 公衆衛生	公衆衛生の概要		1~2
	公衆衛生の歴史	公衆衛生の歴史的経緯と発展の紹介		
	消毒法の歴史	消毒法の発展とその効用を理解する		
5	美容師と公衆衛生	美容業と公衆衛生の意義について理解する		3~4
	保健所と美容業	保健所の業務内容の解説		
	母子保健	母子保健の意義の理解		
6	成人・高齢者保健	日本人の健康について理解する		5~7
	介護保険制度	介護保険制度の概要を理解する		
	精神保健	精神保健の目的を理解する		
7	第2編 環境衛生	環境基準の紹介		8~9
	生活環境	快適な衣食住の条件を理解する		
		上下水道のあり方の概説		
8	廃棄物	美容所から出る廃棄物の扱い方		10~11
9	衛生害虫	美容業と関わる害虫がもたらす感染症を知る		12~14
10	第3編 感染症	感染症の概説		15~17
	感染症の分類	感染症の取り扱い方		
	病原微生物	病原微生物の性質に関する解説		
11	感染症の予防	予防手段の解説		18~20
	感染症法	1~5類感染症の詳説		
12	病原微生物	細菌とウイルスの構造を知る		21~23
	感染症の予防	概念用語の説明		
1	感染症各論	具体的な感染症の詳説		24~27
2	具体的な対策の例	美容所での消毒作業を知る		28~30
教科書	日本理容美容教育センター発行「衛生管理」			
使用教材	教科書、授業ごとに配布するワークシート			
留意点	消毒が実際のサロンワークとしてイメージできるようにすること			

教科名	対象学年	開講学期	区分
保健	2年	通年	必修
担当教員		授業方法	単位数(時間数)
鈴木 直子		講義	1(31)
実務経験	実務経験内容		
有	現役薬剤師		
科目概要			
人体の構造、機能、皮膚科学を学ぶ			
学習到達目標			
人体の構造及び機能、皮膚科学を学ぶことにより、表面的な美を追求するだけでなく、健康と美の結びつきの重要性が理解でき、実践できる美容師になることができる。また早期より国家試験の問題を数多く解くことによつて、国家試験合格にむけての基礎が修得できる。			
評価方法			
期末試験と提出物の内容などから学期毎評価し、60点以上を合格とする			
授業計画			
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数
4	第2編 皮膚科学	第6章 皮膚及び付属器官の疾患③④⑤	1～3
5		皮膚及び付属器官の疾患⑥⑦⑧	4～7
		皮膚疾患総合問題	
6		期末テスト対策	8～11
		期末テスト 解説	
7	第1編	国家試験対策NO. 1～3 復習と問題解説	12～14
9	人体の構造と機能	国家試験対策NO. 4～6 復習と問題解説	15～18
10	総まとめ	国家試験対策NO. 7～8 復習と問題解説	19～22
11		期末テスト対策 期末テスト	23～25
		国家試験対策NO. 9 解説	
12		国家試験対策No. 10～13、国試過去問(保健)	26,27
1		国家試験対策NO. 14～17、国試過去問(保健)	28
2		期末テスト	29,30
		期末テスト 解説	
		国家試験対策ファイナル 人体の構造と機能	
		国家試験対策 ファイナル 皮膚科学	
3		国家試験対策 国家試験想問題	31
教科書	日本理容美容教育センター発行 『保健』		
使用教材	各章ごとに制作した重要事項のまとめワークシートと練習問題 国家試験対策ワークシート		
留意点	多くの過去問題や演習問題を解きます。苦手な部分を発見ができ、克服していきます。		

教科名	対象学年	開講学期	区分
保健	1年	通年	必修
担当教員		授業方法	単位数(時間数)
鈴木 直子		講義	2(60)
実務経験	実務経験内容		
有	現役薬剤師		
科目概要			
人体の構造、機能、皮膚科学を学ぶ			
学習到達目標			
人体の構造及び機能、皮膚科学を学ぶ。表面的な美を追求するだけでなく、健康と美の結びつきの重要性が理解でき、実践できる美容師になることができる。また、早期より国家試験の問題を数多く解くことによって 国家試験合格にむけて基礎が修得できる。			
評価方法			
期末試験、提出物の内容などから学期毎評価し、60点以上を合格とする			
授業計画			
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数
4	第1編 人体の構造	第1章 頭部頸部体表の解剖学 国試問題演習	1~6
	および機能	第2章 骨格器系①	
5		第2章 骨格器系② 国試過去問演習	7~12
		第3章 筋系 国試過去問演習	
		第4章 神経系①	
6		第4章 神経系② 国試過去問演習	13~20
		第5章 感覚器系 国試過去問演習	
7		テスト対策 期末テスト解説	21~24
		第6章 血液・循環器系①	
9		第6章 血液・循環器系② 国試過去問演習	25~30
		第7章 呼吸器 国試過去問演習	
		第8章 消化器①	
10		第8章 消化器② 国試過去問演習	31~40
		第1編 人体の構造および機能 総まとめ演習	
11		テスト対策 期末テスト解説	41~48
	第2編 皮膚科学	第1~4章 皮膚及び付属器官の構造と機能①②	
12		第1~4章 皮膚及び付属器官の構造と機能③	49~52
1		第1~4章 皮膚及び付属器官の構造と機能④⑤	53~56
		第5章 皮膚及び付属器官の保健①	
2		第5章 皮膚及び付属器官の保健②テスト対策	57,58
		期末テスト テスト解説	
3		第6章 皮膚および皮膚器官の疾患①②	59,60
教科書	日本理容美容教育センター 発行 『保健』		
使用教材	各章ごとに制作した重要事項のまとめのワークシートと練習問題		
留意点	各章ごとにワークシートに書き込みをして、提出すること		

教科名		対象学年	開講学期	区分
香粧品化学		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
石橋 正吉			講義	2(31)
実務経験	実務経験内容			
無				
科目概要				
美容で使用する香粧品の基礎と種類や使用目的、成分について学ぶ				
学習到達目標				
香粧品の成分、作用、使用方法の知識を習得し、美容で使用する香粧品を化学的な視点でみるができるようになる。また美容師国家試験の関連問題が解けるだけの学力をつける。				
評価方法				
期末試験(筆記)、60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	2-1章スキンケア製品	香粧品の効果と使用プロセス		1~3
		クレンジング用香粧品		
		コンディショニング用香粧品		
5	2-2章メイクアップ製品	トリートメント用香粧品		4~7
		メイクアップ製品の種類と造形		
		ベースメイクアップ		
		ポイントメイクアップ		
6		アイメイクアップ製品		8~10
		まつ毛ケア製品		
		ネイルメイクアップ製品		
7	2-3章ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品	ヘアケア製品		11
		ヘアコンディショニング		
		ヘアスタイリング		
8		パーマ剤		12
9		ヘアカラー製品		13~16
10		スカルプケア製品		17~20
11	国家試験対策	国家試験過去問演習		21~23
12				24,25
1				26~28
2				29~31
教科書	日本理容美容教育センター発行『香粧品化学』			
使用教材	ワークブック、国家試験過去問題			
留意点	プリント類の管理をすること。			

教科名		対象学年	開講学期	区分
香粧品化学		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
石橋 正吉			講義	1(30)
実務経験	実務経験内容			
無				
科目概要				
美容施術で使用する香粧品の基礎と種類や使用目的、成分について学ぶ				
学習到達目標				
美容に関する香粧品の種類、使用目的、成分等がわかるようになる。国家試験の関連問題が解けるだけの学力、応用力をつける。				
評価方法				
期末試験、60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	1章 香粧品総論	1.香粧品とは		1~3
		2.香粧品と造形		
		3.香粧品の効果と使用プロセス		
5	2章 香粧品を使用の際の注意点	1.香粧品の使用による症状		4~7
		2.香粧品の定義と法規制		
		3.香粧品の効果と使用プロセス安全性と安定性		
6	3章 香粧品の成り立ち	1.香粧品成り立ち		8~11
		2.水と親水性溶媒		
		3.油性原料		
7		4.界面活性剤		12,13
8		5.高分子化合物		14
9		6.色材		15~17
10		7.香料		18~21
11		8.製品を安定させる配合原料		22~24
12		9.その他の機能性配合原料		25,26
1		10.雑貨原料		27~29
2	まとめ	まとめの問題		30
教科書	日本理容美容教育センター発行「香粧品化学」			
使用教材	ワークブック、国家試験過去問題			
留意点				

教科名		対象学年	開講学期	区分
文化論		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
松田 孝子			講義	1(31)
実務経験	実務経験内容			
有	10年以上美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
理容・美容文化の歴史から当時の髪型、服飾の変遷について学ぶ。礼装の一般常識を知る。				
学習到達目標				
1. 1学期と2学期は、理容・美容文化歴史から髪型、服飾の変遷を知ることができる 2. 2学期後半は、和装と洋装の礼装の種類がわかるようになり、一般常識・マナーがわかるようになる。 3. 3学期は、国家試験・筆記に出題される要点を覚え、合格できる知識をつけることができる。				
評価方法				
各期末試験(85～90点)と平常点として提出物・授業態度(10～15点)合計100点で評価する				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	3章日本編・4章	1年時の振り返り 日本編 11.～16のまとめ 4章・現代14・15		1～3
5	4章西洋編	4章・16まで日本編に加えて ※現代の練習問題		4～7
		1.古代エジプト 2. 古代ギリシア・ローマ 3.古代ゲルマン		
6	4章	4.中世ヨーロッパ 5.近世Ⅰ(16世紀) 6.近世Ⅱ(17世紀)		8～10
7	4章	7.近世Ⅲ(18世紀) 8.近代(18末～19世紀初)		11～12
9	4章	9.Ⅱ(19世紀) 10.現代 11.現代Ⅱ		13～16
		12.現代Ⅲ(1940年代後半)		
10	4章	13.現代Ⅳ(1960年代) 14.現代Ⅴ(1970年代)		17～20
11	4章	15.現代・16.現代Ⅵ 練習問題		21～24
12	4章・5章礼装	和装・洋装の礼装 試験練習問題 期末試験・解説		25,26
		国試対策・ワークテスト		
1		国試対策・ミックス問題⑪⑫⑬		27,28
2		国試対策・ミックス問題⑭⑮ 期末試験・解説		29,30
3		国試対策		31
教科書	日本理容美容教育センター 発行「文化論」			
使用教材	参考資料、授業プリント			
留意点	各章の時代ごとに練習問題を実施して理解力を確認する。3学期は文化と理論のミックス問題で国試対策。			

教科名		対象学年	開講学期	区分
文化論		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
峯 知世			講義	1(30)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
理容美容文化の歴史を学び、髪型、化粧、服装の変遷について学ぶ。				
学習到達目標				
美容の歴史から各時代の髪型・化粧・服装の変遷を理解し、美容師国家試験に合格できるだけの知識を身につける。				
評価方法				
期末試験80点(筆記)・平常点20点(提出物、出席状況、授業態度など)から評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第1・2章	第1節 総論 / 第2節 日本の理容業・美容業の歴史		1~3
5	第3章	第1節 縄文・弥生・古墳時代 / 第2節 古代		4~6
6	第3章	第3節 中世 / 第4節 近世		7~10
7	第3章	復習		11~13
9	第3章	第5節 近世		14~16
10	第3章	第6節 近代		17~20
11	第3章	復習		21,22
12	第3章	第7節 近代		23~25
1	第3章	第8節 近代 / 第9・10・11節 現代		26~28
2	第3章	復習 / 第12節 現代		29,30
教科書	日本理容美容教育センター 発行「文化論」			
使用教材	参考資料、授業プリント			
留意点				

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容技術理論		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
松田 孝子			講義	2(62)
実務経験	実務経験内容			
有	10年以上美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
美容の基礎的理論から用具類の操作・管理方法と衛生的、能率的に技術を行うための理論を学ぶ。				
学習到達目標				
1学期、2学期は、美容師として必要な基礎的な理論を学び、各章の要点が理解できるようになる。3学期ワークテストと模試を実施し、国家試験筆記試験に合格できる知識をつけることができるようになる。				
評価方法				
各学期末試験(90点)※と、平常点(提出物と授業態度(10点))合計100点で評価し、60点以上を合格とする。※マークシートで50問出題で90%で換算する。				
授業計画				
月	单元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	3章 ヘアデザイン	1. 美容とデザイン、※練習問題	1~6	
	9章 ネイル	7. ネイルケア、8. アーティフィシャルネイル ※練習問題		
5	11章 日本髪	3. 種類、4. 調和、5. 装飾品、6. 結髪道具7. 技術 ※練習問題	7~14	
	2章 シャンプーイング	5. スキアルブトリートメント、6. ヘッドスパ ※練習問題		
6	4章 ヘアカットイング	7. ベーシックカット、8. シザーズ、9. レザーカット、※練習問題	15~20	
	5章 パーマネントウェービング	5. パーマ技術6. 縮毛矯正※練習問題 5章の5・6・9の復習		
7	6章 ヘアセットイング	7. ブロー、8. アイロン、9. バックコミング、	21~24	
		10. アップ、11. ウィッグヘアピース ※練習問題		
8	各章	期末試験・解説	25,26	
9	7章 ヘアカラーリング	7. パッチテスト/8. 注意事項/10. 酸性染毛剤/11. ※練習問題	27~32	
10	10章 メイク	7. メイクアップ技術、8. ライタルメイク、9. 修整メイク ※練習問題	33~40	
	12章 着付け	9.10.11.13. 着付け各技術、16. 婚礼注意事項 ※練習問題		
11	11章 日本髪・12章	9. かつら、17. 和装花嫁、18. 洋装花嫁 ※練習問題	41~46	
12	各章	期末試験解説 国家試験対策・15問ワークミックス①②③	47~50	
1		国家試験対策・15問ワークミックス④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	51~56	
2		期末試験解説 国家試験対策(模試)	57~62	
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論①」「技術理論②」			
使用教材	日本理容美容教育センター 発行ワークブック、参考資料、プリント			
留意点	各章毎、まとめとして練習問題テストを実施して理解度を確認する。			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容技術理論		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
相馬 優依			講義	3(90)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有り			
科目概要				
美容の基礎的理論から用具類の操作・管理方法と衛生的、能率的に技術を行うための理論を学ぶ。				
学習到達目標				
美容師として必要な基礎的な理論が理解できるようになり、国家試験に合格できるだけの知識を身につける。				
評価方法				
期末試験・平常点(出席状況・提出物・授業態度などから評価)、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	序章	1.美容理論と技術 2.作業姿勢 3.人体各部名称・練習問題	1～3	
	1章	1.美容技術における用具 2.コーム 3.ブラシ 4.シザーズ 5.レザ-	4～6	
	4章	1章練習問題 4-3.美容刃物 2.シザーズ、レザ-の扱い方	7～9	
5	1章・4章	1章練習問題、1.ヘアカッティングとは、ヘアカッティングの正しい姿勢	10～15	
	1章・5章	1章練習問題、パーマメントウェーブの理論	16～21	
6	5章	1.パーマメントウェーブの理論(歴史と現在)・5章練習問題	22～25	
	1章・6章	8.ローラー、1章練習問題 6-1ヘアセッティングとは 2.ヘアパーティング	26～29	
7	6章	3.ヘアシッピング・4ヘアカーリング・5.ヘアウエービング・6章練習問題	30～32	
	8章	1.エステティック概論、2.皮膚の生理と構造、8章練習問題、期末試験解説	33～35	
8	9章	1.ネイル技術概論と種類 2.爪の構造と機能	36.37	
	9・10章	ネイル技術概論、メイクアップ概論	38～42	
9	1・2章	9.ヘアアイロン 10.ヘアドライヤー、2-1 シャンプー・インク総論、2.サイトシャンプー	43～47	
	1章・5章	11.ヘアスチーマー、12.遠赤外線機、5-3 パーマ剤の分類、4.注意事項 1.2.5章練習問題	48～52	
10	10章	3.フェイスプロポーション 4.色彩について 5.パーソナルカラー 10.まつ毛エクステンション	53～57	
	8章・10章	8-3 カウンセリング 練習問題 10-7 メイクアップ 10章練習問題、期末試験解説	58～65	
12	2章・4章	2-4 リンス・コンディショナー・トリートメント 5.スカルプ・トリートメント 4-6 ヘアカッティングの基礎理論	66～71	
	11章	1.日本髪由来 2.結髪道具 3.種類と特徴・練習問題	72～77	
1	12章	1.着付けの目的 2.礼装 7.各部名称 8.着物のたたみ方	78～83	
	2・4・12章	2・4・12章練習問題、期末試験解説	84～89	
3	各章	一年間のまとめ・プリントの整理	90	
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論①」「技術理論②」			
使用教材	授業プリント、DVD、美容機器等、参考資料			
留意点	期末試験(90点)、平常点(出席率・提出物・授業態度などで10点)合計100点とする			

教科名		対象学年	開講学期	区分
運営管理		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
宮口 秀和			講義	1(31)
実務経験	実務経験内容			
有	美容商材ディーラー経営者、美容師として美容室勤務経験有り			
科目概要				
サロン運営に必要な経営管理、労務管理の基礎、接客マナー、マーケティングなどを学ぶ				
学習到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職する心構え、開業するための基礎知識、お客様の大切さ等が理解できるようになる。</li> <li>・国家試験に合格できるだけの知識がつくようになる。</li> </ul>				
評価方法				
期末試験(筆記)から学期毎評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第1章 経営とは・経営者とは	1.経営が必要とされる理由 2.継続が難しい理由 3.経営と何か		1,2
	第1章 経営とは・経営者とは	4.経営資源と経営計画 5.経営戦略 6.経営戦略が目指すもの 顧客に選ばれるよい店の実現		3~5
5	第2章 理容業・美容業の経営について	1.業界の概要 2.競争の変化 3.サービスとしての理容・美容 4.理容業・美容業の顧客について		6~8
	第3章 資金の管理	1.資金管理の重要性		9
6	第3章 資金の管理	2.収支と損益 3.会計の考え方		10~14
	第3章 資金の管理	4.コストを管理する 5.税金について 6.税金の申告		
7	第2編第1章 人という資源	1.人という資源とは 2.人の能力を高める		15,16
	第1章 人という資源	3.人をやる気にさせるために 4.給与		
9	第1章 人という資源	5.待遇・福利厚生 6.労働者の権利		17~19
	第2章 健康・安全な職場環境	1.健康管理の基礎 2.理容・美容の仕事と健康		
10	第2章 健康・安全な職場環境	3.理容業・美容業に特徴的な健康問題 4.理容・美容の作業環境に関する健康問題		20~23
	第3章 従業員としての視点から	1.社会人としての責任 社会保険		
11	第3章 従業員の視点から	1.社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任 2~4.社会保険 5.キャリアプランの重要性 6.仕事をするうえで考えるべきこと		24~26
	第3編顧客のために 第1章 サービス・デザイン	1.顧客が求める価値		
12	第1章 サービス・デザイン	2.価値の実態 3.顧客満足の実現のためのシステム 4.最も重要な価値:人 5.価値の多様性顧客が求めるもの		27
	第1章 サービス・デザイン	6.サービスの範囲		
	第2章 マーケティング	1.理容業・美容業のマーケティング 2.マーケティングミックス		
		3.4.マーケティングミックスの要因 短期的要因①②		
1	第2章 マーケティング	5.6.マーケティングミックスの要因 長期的要因①②		28,29
	第3章 サービスにおける人の役割	1.接客についての理解 2.よい接客のために 3.~7.接客の実践①②③④⑤		
2		8.接客におけるトラブルと対応 9.接客で発生が予想される問題 10.問題を深刻化させないための対策・対処、国家試験対策		30,31
教科書	日本理容美容教育センター 発行「運営管理」			
使用教材				
留意点	教科書を必ず持って受講すること			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 オールウェーブ		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
高橋 英里奈			実習	3(93)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
国家試験課題のスタイルを解説して、フィンガーウェーブ、様々なピンカールができるようになり、国家試験が合格できるように技術の習得を指導する科目である				
学習到達目標				
国家試験課題のオールウェーブセッティングの構成が理解でき、試験時間内にきれいにできるようになる。国家試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
学期毎の期末試験(実技試験)と平常点(持ち物、授業態度、模試等)で60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	单元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第5章ヘアセッティング	1年次復習		1~6
6		メイポールカール、クロッキノールカール練習		7~18
7		全頭仕上げ練習		19~24
9		オールウェーブセッティング 30分		25~36
10		オールウェーブセッティング 27分		37~48
11		オールウェーブセッティング 26分 国試対策		49~60
12		国試対策		61~72
1		国試対策		73~84
2		国試対策 ヘアセット		85~93
教科書	技術理論1、実技試験課題集			
使用教材	オールウェーブ用具一式、11月以降は、国試課題用具一式			
留意点	積極的に自主練習を行うこと。11月以降は、国試課題を行います。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 オールウェーブ		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
清名 直子			実習	2(60)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
ヘアセットの基礎から、コームの持ち方、フィンガーウェーブの作り方などを指導し、国家試験課題のスタイル技術の習得を指導する科目である				
学習到達目標				
国家試験課題の6線7段の構成を理解し、作成できるようになる				
評価方法				
期末試験(実技)、平常点(授業時持参品、取り組み方、出席状況等)から評価。60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	单元名	学習内容(指導内容)		回数
4	6章 ヘアセットイング	実習用具確認		1~8
		ヘアセットイングとは		
		フィンガーウェーブのやり方		
5		ノーパート7段構成(1~3段)		9~14
6		ノーパート7段構成(4~7段)		15~20
7		ヘアカーリング理論と実践		
		スカルプチュアカール作り方		
		スカルプチュアカール(フロント)		
9		スカルプチュアカール(3段目、フロント)		21~26
10		リフトカール4段目		27~36
11		リフトカール5段目		
1		メイポールカール、クロッキノールカール、全頭仕上げ練習		37~42
2		全頭仕上げ練習		43~58
3		全頭仕上げ練習		59,60
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、実技課題集			
使用教材	オールウェーブ用具一式			
留意点	積極的に自主練習を行うこと。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 ワインディング		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
松田 孝子 / 田代 恭也(AT)			実習	3(100)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
国家試験課題スタイルのワインディング技術を習得し、パーマネントウェービング技術を学ぶ				
学習到達目標				
国家試験課題ワインディングが試験時間内に巻けるようになり、国家試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験、授業の出席状況、持参品、授業の受講態度などから評価し、60点以上を合格とする。平常点20点 テスト80点				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	4章パーマネントウェービング	ブロッキング確認 角度確認		1~9
5		国家試験スタイル19分 早巻き		10~18
6		国家試験スタイル19分 早巻き		19~30
7		国家試験スタイル20分		31~36
9		グループワーク		37~45
10		グループワーク・国試対策		46~57
11		国試対策		58~72
12		国試対策		73~84
1		国試対策		85~96
2		国試対策 全頭巻き復習		97~100
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、技術の解説			
使用教材	ワインディング用具一式			
留意点	自主練習を積極的に行う。11月以降は、国試課題を行います。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 ワインディング		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
相馬 優依 / 松田 孝子			実習	2(60)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有り			
科目概要				
国家試験課題ワインディングに関する基本的な技能及びパーマメントウェービング技術の知識を習得する				
学習到達目標				
国家試験課題のワインディングデザイン巻きが22分のできるようになる。またコンクールに入賞できるようになる。				
評価方法				
期末試験(実技)、平常点(授業の出席状況、提出物、授業の受講態度など)から評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	单元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	4章パーマメントウェービング	使用道具の説明	1~4	
		コームの持ち方、動かし方		
		ロッドセッティング、ゴムの留め方		
		ワインディングのブロッキング		
		ロッドの巻き方(上巻き、下巻き)		
5		ワインディングのブロッキング	5~14	
		全頭きれい巻き、フェス展示作品作り		
6		復習、全頭完成60分	15~20	
7		全頭構成タイム短縮	21~24	
9		ワインディングのブロッキング	25~30	
		全頭構成タイム短縮、きれい巻き、		
		コンクール対策		
10		全頭構成タイム25分目標	31~36	
11		試験対策	37~40	
12		細かいテクニックの確認	41~46	
1		校内コンクール対策	47~52	
2		全頭22分 国家課題に向けて	53~58	
3		全頭22分 国家課題に向けて	59,60	
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、技術の解説			
使用教材	ワインディング用具一式			
留意点	自主練習を積極的に行う。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			



教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 シャンプー		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
井原 有美 / 田代 恭也(AT)			実習	2(62)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有			
科目概要				
基本的な技術からサイドシャンプー、バックシャンプー、ヘッドスパなど様々な技術を習得できるように指導する科目である				
学習到達目標				
美容師として必要なシャンプー技術ができるようになり、ヘッドスパ3級検定試験に合格できるだけの技術を身につける。検定終了後は、国家試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験(実技・筆記)、平常点(提出物、授業態度など)から評価し60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	2章シャンプー・イング	サイドシャンプー	タオルの掛け方	1~6
		プレーンリンス		
5		サイドシャンプー		7,8
6		バックシャンプー		9~14
7		ヘッドスパ概要		15~20
9		ヘッドスパ		21~28
10		ヘッドスパ		29~38
		検定対策		
11		ヘッドスパ検定対策		39~48
12		国家試験対策		49~54
1		国家試験対策		55,56
2		国家試験対策・シャンプー復習		57~62
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、日本ウエルネス・ヘッドスパ協会テキスト			
使用教材	道具一式、化粧品類等			
留意点	試験(80点)、提出物、持参品、衛生面、授業態度(計20点)合計100点とする。 検定は筆記試験と実技試験があるため、期末試験に筆記試験がある。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる			

教科名	対象学年	開講学期	区分
美容実習 2	2年	通年	必修
担当教員		授業方法	単位数(時間数)
井原 有美 / 田代 恭也(AT)		実習	2(62)※
実務経験	実務経験内容		
有	美容師としての美容室勤務経験有		
科目概要			
基本的な技術から即戦力となれるような様々な技術を習得できるように指導する科目である			
学習到達目標			
美容師として必要な技術ができるようになり、サロンワークに必要な基礎的技術ができるようになる。終了後は、国家試験に合格できるだけの技術を身につける。			
評価方法			
期末試験(実技・筆記)、平常点(提出物、授業態度など)から評価し60点以上を合格とする。			
授業計画			
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数
4		編み込み、アップスタイル、ステージメイク	1～8
		トータルコーディネイト(相モデル)	
5		目的に合わせたトータルコーディネイト(相モデル)	9～16
6		パーマ概論	17～24
7		パーマ	25～28
9		パーマ・ストレート、仕上げ	29～36
10		パーマ、仕上げ方	37～44
11		作品づくり	45～52
12		国家試験対策	53,54
1		国家試験対策	55,56
2		国家試験対策	57～62
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」		
使用教材	美容道具一式、化粧品類等		
留意点			
(※)時間数(単位数)について補足		美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる	

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 シャンプー・まつげエクステンション		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
井原 有美 / 高橋 英里奈			実習	2(60)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有 まつげエクステンションメーカーに勤務経験有。まつげエクステンション講師として従事していた経験有。			
科目概要				
シャンプー技術に関する基本からサイドシャンプー、バックシャンプー、ヘッドスパなど様々な技術を習得できるように指導する科目である。まつげエクステンションの知識・技術を習得する。				
学習到達目標				
シャンプー時に行うタオルのかけ方、ブレーンリンスやシャンプー技術を身につけ、ヘッドスパ3級検定試験に合格できるようになる。 ・まつげエクステンションに関する基本的な知識を習得し、装着ができるようになる。 ABEアイラッシュエクステンションアシスタントディレクター資格取得検定試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験(実技・筆記)、平常点(提出物、授業態度など)から評価し60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	シャンプー/まつげエクステンション	シャンプーングの概論・シャンプー台の説明 まつげエクステンション概論/まつげエクステンション概論	1～6	
5	シャンプー/まつげエクステンション	タオルの掛け方・ブレーンリンス 衛生管理/保健/カウンセリング	7～12	
6	シャンプー/まつげエクステンション	ブレーンリンス・泡立て 事前準備/エクステンションの装着	13～18	
7	シャンプー/まつげエクステンション	サイドシャンプー・ブロー エクステンションのリムービング	19～24	
8	シャンプー/まつげエクステンション	サイドシャンプー	25～30	
9		エクステンションの装着(タイム短縮)		
10	シャンプー/まつげエクステンション	サイドシャンプー 検定対策	31～36	
11	シャンプー/まつげエクステンション	バックシャンプー・泡立て	37～42	
		検定対策		
12	シャンプー/まつげエクステンション	バックシャンプー	43～48	
		検定対策		
1	シャンプー まつげエクステンション	バックシャンプー	49～54	
		検定対策		
2	シャンプー まつげエクステンション	バックシャンプー	55～60	
		検定		
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論」、日本ウエルネス・ヘッドスパ協会テキスト日本理容美容教育センター 発行「まつげエクステンション」			
使用教材	道具一式、化粧品類等、まつげエクステンション用具一式			
留意点				
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 メイクアップ		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
高橋英里奈 / 田代恭也(AT)			実習	2(60)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有。			
科目概要				
美容師として必要なメイクアップの基礎から学び知識と技術を身につける。				
学習到達目標				
美容師として必要なメイクアップの基礎を学び知識がついてナチュラルメイク技術ができるようになる。また、SBS(全米連)メイク検定2級試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験(筆記又は実技)、平常点(出席状況、提出物、授業の受講態度など)から評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	10章メイクアップ	メイクアップ概論、Chapter1～6 ベースメイクアップまで	1～6	
5		Chapter6・7 ベースメイクアップの仕上げまで	7～10	
6		Chapter8～10 目元・眉・唇・学科試験対策	11～16	
7		通し練習	17～20	
9		まつげエクステーション概論・用具・衛生管理・保健	21～26	
10		カウンセリング・事前準備、韓国メイク	27～34	
11		エクステーションの装着、リムービング	35～40	
12		フルメイク相モデル	41～48	
1		検定対策・通し練習	49～54	
2		検定対策・通し練習	55～60	
教科書	SBSメイクアップテキスト2級1級、日本理容美容教育センター発行「まつげエクステーション教科書」「技術理論2」			
使用教材	メイク用具一式、美容用具一式、まつげエクステーション用具一式			
留意点	メイクは、相モデルの授業有。検定は筆記試験と実技試験があるため、期末試験に筆記がある。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 ヘアカッティング		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
清名 直子			実習	3(100)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
ヘアカット等のシザーズの持ち方、姿勢、基本的カットなどから指導し、国家試験課題のカットスタイルを合格できるよう指導する科目である				
学習到達目標				
ヘアカットに必要な基礎的技術ができるようになる。国家試験課題のヘアスタイルが試験時間内にカットできるようになり、国家試験に合格できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験(実技)実技90点、平常点10点(持参品、受講態度など)から評価。60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第4章ヘアカット	1年時復習 正確なパネルの引き出し方		1~4
		ブラントカット ワンレングス		
5		レイヤーカット グラデーション		5~10
6		ストロークカット ポインティングカット		11~14
		スライシング		
7		セニングカット レザーカット テーパーカット		15~18
9		ベーシックスタイルの創作 実技試験に向けて		19~26
10		実技試験課題の解説 レイヤーカット		27~60
11		国家試験対策 第1課題		61~72
12		国家試験対策 第1課題		73~84
1		国家試験対策 第1課題		85~93
2		国家試験対策 サロンスタイル 創作スタイル		94~100
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、技術の解説			
使用教材	シザーズ・レザーの道具一式			
留意点	授業の出欠状況、取り組み方も評価に含む。自主練習を積極的に行う。			
(※)時間数(単位数)について補足		美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる		

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習 ヘアカッティング		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
井原 有美			実習	2(60)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
ヘアカットに必要なシザーズの持ち方、姿勢、カットの基本から指導し、国家試験課題のカットスタイルをできるよう指導する科目である。				
学習到達目標				
用具が正しく扱うことができ、ベーシックなカット技術ができるようになる。コンクール入賞できるだけの技術を身につける。				
評価方法				
期末試験(実技)実技90点、平常点10点(受講態度、持参品など)から評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第4章ヘアカット	用具の取り扱い方		1～4
5	第4章ヘアカット	ワンレングス(まっすぐ)		5～10
6	第4章ヘアカット	ワンレングス(前下がり)		11～16
7	第4章ヘアカット	ワンレングス(前上がり)、復習		17～20
9	第4章ヘアカット	グラデーション45度		21～26
10	第4章ヘアカット	グラデーション60度		27～34
11	第4章ヘアカット	セイルレングス(後ろ)		35～42
12	第4章ヘアカット	セイルレングス(前)		43～48
1	第4章ヘアカット	レイヤー(国試)		49～54
2	第4章ヘアカット	レイヤー(国試)		55～60
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、技術の解説			
使用教材	カット用具一式			
留意点	自主練習を積極的に行う。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習1		2年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
馬上 薫			実習	2(62)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有			
科目概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘアカラーリングから多様な美容技術を習得する。・ヘアケア剤の種類や知識を学ぶ。</li> <li>・美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するための基礎的操作を学ぶ</li> <li>・国家試験課題の技術を習得する</li> </ul>				
学習到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーリングの塗布ができるようになり、コンクール作品が入賞できるだけの技術を身につけることができる。</li> <li>・ヘアケア剤の種類や知識をつけることができる。サロン業務を知ることができる。</li> <li>・国家試験に合格できるだけの技術を身につける。</li> </ul>				
評価方法				
学期毎、授業の出欠状況、授業時の取り組み方、提出物、作品の完成度などから評価。60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)	回数	
4	第6章 ヘアセットイング	フォトコン制作、デザイン決め	1~6	
5	第6章 ヘアセットイング	カット、セットスタイル	7~12	
6	第7章 ヘアカラーリング	ブリーチ マニキュア	13~18	
7		フォトコン作品完成 実務実習30H	19~26	
8		実務実習 フォトコン作品まとめ	27,28	
9		ブロースタイル セットスタイル	29~34	
10		ヘアケアマイスター(成分について)振り返り	35~40	
11		セットスタイル 国試対策	41~48	
12		国試対策	49~54	
1		国試対策	55~58	
2		国試対策 実用的技術復習	59~62	
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」、配付資料			
使用教材	タオル、ドライヤー、ブラシ類、アップ道具一式、カラー道具一式等			
留意点	コンクール作品で使う飾り等は各自で用意する			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(930時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容実習(アップスタイル)		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
馬上 薫			実習	3(90)※
実務経験	実務経験内容			
有	美容師としての美容室勤務経験有			
科目概要				
アップスタイルに必要な基本技術から様々なアップスタイルが習得する				
学習到達目標				
作品の仕上げのバランスを見て修正することや、適切な立ち位置、左右の手の動かし方を身につけることができる				
評価方法				
学期毎、授業の出欠状況、授業時の取り組み方、作品の完成度で評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	第6章ヘアセッティング	道具の説明 ブラシの持ち方、使い方		1~9
		一束に結う ピンの開け方、留め方		
5		一束結び・カーリーロープ		10~18
		三つ編み、編み込みスタイル完成		
6		アップスタイル 作品1		19~27
7		アップスタイル 作品2		28~33
8		アップスタイル 作品3		34~36
9		アップスタイル 1学期復習 作品4		37~45
10		アップスタイル 作品5		46~57
11		アップスタイル 作品6		58~69
12		アップスタイル 校内大会		70~79
1		アップスタイル 校内大会練習		80~85
2		アップスタイル 校内大会練習		86~88
3		アップスタイル 校内大会		89,90
教科書	日本理容美容教育センター 発行「技術理論1」			
使用教材	アップ用具一式			
留意点	積極的に反復練習を行う。			
(※)時間数(単位数)について補足	美容実習総単位数(時間数)は、2年間で30単位(900時間)となる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美術・デッサン		1年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
馬上 薫			講義	2(60)
実務経験	実務経験内容			
有	色彩系講師経験有			
科目概要				
色彩の基礎から学び、パーソナルカラー検定の3級と2級資格取得を目指す				
学習到達目標				
J-colorパーソナルカラー3級、2級検定試験に合格できるだけの知識をつけることができる。3級では自分ブランディングができるようになり、2級ではアドバイザーや、サロンワークで活かせる力をつけることができる。				
評価方法				
期末試験(筆記)と平常点(授業の出席状況、授業時の取り組み方)で評価し、60点以上合格とする				
授業計画				
月	単元名	学習内容(指導内容)		回数
4	パーソナルカラー3級	パーソナルカラーの基礎理論		1~8
	序章	色の三属性 色相 明度 彩度		
	1章 2章	4シーズンに合わせた三属性の理解		
5	2章 3章 4章	対比 反射 吸収について理解		9~12
		色相對比 明度対比 彩度対比 理解と演習		
6	5章 6章	4シーズンの系統色名と慣用色名について似合う		13~18
		コーディネート方法について		
7		3級検定に向けてのポイントまとめ		19~22
		3級検定 まとめ		
9		3級ポイント復習		23~28
	パーソナルカラー2級	パーソナルカラー活用アドバイザーとは		
10	序章 1章	PCCSシステムについて		29~36
	2章	配色演習 統一と変化の考え方について		
11	3章	色素をもとにしたコミュニケーション		37~44
12	5章 6章	三属性を中心としたドレーピング方法		45~50
		簡易ドレープカードを使っでの練習		
1		2級検定に向けて対策		51~54
2		2級検定		55~58
3		3級・2級まとめ		59,60
教科書	一般社団法人日本カラーコーディネーター協会発行「色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級」「2級」			
使用教材	色相環 トーン表 4シーズンボード カラーカード			
留意点				

教科名		対象学年	開講学期	区分
美術・デッサン		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
古川 久容			講義	2(48)
実務経験	実務経験内容			
有	美術系スクールの講師経験有			
科目概要				
スタイル画から顔のバランスを学ぶ。色を学び、ライフケアカラーの実践に役立たせるための科目である。				
学習到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタイル画の基本の理解、デザイン画のデッサンを描けるようになり、デザイン画でテーマに沿った作品を完成させることができる。コンクールへのヘアデザイン画部門で入選できる技術をつけることができる。</li> <li>・色の効果、配色からイメージのトレーニングをしてクリエイターとしての感性をつけることができる。</li> </ul>				
評価方法				
学期毎、授業の取り組み方、提出課題等で評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	ヘアスタイル画	コンテスト作品制作 デッサン	1～6	
5		コンテスト作品制作 デッサン	7～12	
6	ヘアスタイル画	コンテスト作品制作	13～20	
7	色彩学	絵の具を使い、混色の練習	21～24	
8		イメージスケール	25,26	
9	色のイメージ	色が人に与える感情効果	27～32	
		テーマ別コラージュ		
10	色の効果	配色の演習	33～38	
		ファッションカラー		
		フードカラー		
11	インテリアカラー	インテリアの配色の基本	39～46	
	ライフケアカラー	安全と安心の色 ワーク		
12	絵画 工作	絵の具、パステル等	47,48	
教科書	日本理容美容教育センター 発行「スタイル画」			
使用教材	デッサン用具、ケント紙、のり、色鉛筆、絵の具			
留意点	2年間で4単位(124時間)となる			



教科名		対象学年	開講学期	区分
美容教養基礎2		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
板垣 典明			講義及び演習	1(31)
実務経験	実務経験内容			
無				
科目概要				
国家試験各教科の演習や、社会人としてマナーや必要な知識を学ぶことができる。				
学習到達目標				
社会人としてのマナーや知識を身につけ、国家試験過去問題の演習により、美容師国家試験の関連問題の基礎力を身につけることができる。				
評価方法				
授業演習の獲得点、期末試験(筆記)の他に、レポート提出等、総合的に判断。60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	国家試験対策	挨拶、分離礼、国家試験過去問題の演習	1～3	
5	国家試験対策	挨拶、分離礼、国家試験過去問題の演習	4～7	
		挨拶、分離礼、国家試験過去問題の演習		
		マナー、国家試験過去問題の演習		
		マナー、国家試験過去問題の演習		
6	国家試験対策	マナー、国家試験過去問題の演習	8～10	
		接遇復習、国家試験過去問題の演習		
		接遇復習、国家試験過去問題の演習		
7	国家試験対策	マナー、国家試験過去問題の演習	11	
9	国家試験対策	マナー、国家試験過去問題の演習	12～15	
10	国家試験対策	国家試験過去問題の演習	16～20	
11	国家試験対策	国家試験過去問題の演習	21～23	
12	国家試験対策	国家試験過去問題の演習	24～26	
1	国家試験対策	国家試験過去問題の演習	27,28	
2	国家試験対策	挨拶、分離礼、国家試験過去問題の演習	29～31	
		マナー復習、国家試験過去問題の演習		
教科書				
使用教材	国家試験過去問題プリント、ワークブック			
留意点	国家試験合格のため、多くの問題に触れる			

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容教養基礎1		1年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
石橋 正吉			講義	1(30)
実務経験	実務経験内容			
無				
科目概要				
国家試験各教科の演習や、社会人として必要な知識を学ぶ				
学習到達目標				
美容師として、社会生活や営業等で必要な数学の知識を習熟する。				
評価方法				
期末試験の他に、レポート提出等、総合的に判断する。60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	数の計算	* 四則計算 計算の基本	1~3	
5	いろいろな単位	* 生活上必要な単位 重量、長さ、容量、速さ、	4~6	
6		時間の計算と給料	7~10	
7	損得勘定	* 消費税	11~13	
9		* 利益、損益の出し方	14~17	
10	液体の濃度	* 濃度の計算	18~20	
11		* 体積濃度と重量濃度 * 希釈倍率からの濃度	21~24	
12		濃度問題抜粋)	25,26	
1		* 国家試験の濃度問題演習	27,28	
2	国家試験に向けて	* 国家試験対策	29,30	
教科書	無			
使用教材	プリント			
留意点				

教科名		対象学年	開講学期	区分
美容教養基礎2(接客・マナー)		1年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
板垣 典明			講義及び演習	1(30)
実務経験	実務経験内容			
無				
科目概要				
サロンワークに必要な言葉遣い、接客マナーを学ぶ				
学習到達目標				
サロンワークに必要な「接客・マナー」を身につけることができ、併せてSBS(全米連)接客・マナー3級・2級検定資格を取得することができる。お客様に対する適切な言葉遣い、所作を学ぶことができる。				
評価方法				
期末試験(筆記)結果及び、平常点(提出物の内容)を総合的に勘案し60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	第1章 学校内マナー 第2章 学校内マナーと美容室接客の共通スキル	オリエンテーション「美容師としての接客・マナーの重要性」挨拶・分離礼・おもてなしの心・接客と接客 周りの人への接し方・ルールを守る・学校内の各部屋でのマナー・身だしなみ・表情・椅子への座り方・立ち方・歩き方 話の聞き方・話し方・1分スピーチ・クッション言葉① 話の聞き方・話し方・1分スピーチ・クッション言葉②	1~4	
5	第2章 学校内マナーと美容室接客の共通スキル	話の聞き方・話し方・1分スピーチ・クッション言葉③ 話の聞き方・話し方・1分スピーチ・クッション言葉④ SBS接客・マナー3級検定模擬	5~7	
6	第3章 美容室での業務の流れ	<b>接客・マナー3級検定試験</b> オリエンテーション接客・マナー2級 履歴書による自己表現 履歴書作成① 履歴書作成②	8~11	
7		履歴書作成③	12,13	
9		就職面接での自己表現 就職面接にあたっての留意事項	14~16	
10		接客・マナー2級面接①②③(個人面接)	17~20	
11	2級コミュニケーションスキル研究	接客・マナー2級面接④(個人面接) 接客・マナー2級面接⑤(個人面接)	21~24	
12		お客様対応の考え方研究 ロールプレイング演習「台本作成」 ロールプレイング演習「事例1」	25,26	
1		ロールプレイング演習「事例1・2」	27,28	
2		ロールプレイング演習「実技試験内容練習」 SBS接客・マナー2級検定筆記試験	29,30	
3		SBS接客・マナー2級検定実技試験		
教科書	全米連評価認定運営委員会発行 接客・マナー3級テキスト / 接客・マナー2級検定テキスト			
使用教材				
留意点				

教科名		対象学年	開講学期	区分
栄養理論		1年	通年	必修
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
鈴木 直子			講義	2(60)
実務経験	実務経験内容			
有	薬剤師			
科目概要				
健康や美容のための栄養素や食生活についての基本と栄養学の歴史を学ぶ				
学習到達目標				
美を追求する美容師として、皮膚や毛髪をはじめとする皮膚付属器官の栄養は食物から摂取することの大切さがわかるようになる。また、健康や美を保つための栄養素や食生活についての基本が理解できるようになる。				
評価方法				
期末試験、提出物の内容等から学期毎評価し、60点以上を合格とする				
授業計画				
月	単元名	指導内容		回数
4	栄養学の歴史、第1章 栄養学の基本のき	栄養学の歴史		1~6
		体のリズム 睡眠のメカニズム 練習問題		
5	第2章栄養学の最新常識、5章食品の栄養成分と作用	炭水化物 糖質と食物繊維 練習問題		7~14
		脂質 トリグリセリドと脂肪酸		
		コレステロール 練習問題		
6	第3章栄養素の働き	タンパク質とアミノ酸		15~20
		アミノ酸スコア 練習問題		
		期末テスト対策 期末テスト		
7		消化の仕組み 消化吸収後の行方		21~24
9	第4章症状別・栄養素のとり方	ビタミン 脂溶性ビタミン		25~30
10		ビタミン 水溶性ビタミン		31~38
		ミネラルについて①		
11		テスト対策 期末テスト		39~44
		水について		
		アルコールについて		
12		たばこの害について		45~50
		アルコールについて		
		免疫力を高める・ストレスに負けない食の科学		
1	第4章 ライフスタイル	基礎代謝		51~56
	第7章 食生活と安全確保	食品の安全を考える 期末テスト対策		
2		皮膚と栄養について 期末テスト		57~60
教科書	西東社発行 一生役立つきちんとわかる栄養学			
使用教材	各章ごとに制作したワークシートと練習問題			
留意点	各項目ごとに、より深く理解してもらうために、練習問題を実施していきます			

教科名		対象学年	開講学期	区分
エステティック・着付		1年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
松田孝子 / 白石美和子			講義及び実習	2(60)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有。着付けの従事経験が有。			
科目概要				
エステ、着付けの基礎知識、技術の習得と、検定3級取得を目指し指導する科目である。				
学習到達目標				
フェイシャルエステ、浴衣の着付けができるようになり、SBSエステ検定3級、着付け検定3級の取得をする知識と技術をつけることができる。				
評価方法				
1学期はどちらも筆記試験、2学期はエステティックは実技と筆記試験、着付けは、実技試験を実施。平常点(授業の出席状況、受講態度など)から評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	エステティック概論	準備 セッティングの仕方スポンジの拭き取り手順W①②	1~6	
	着付け概論	準備、人台へ肌襦袢、補整の手順		
5	消毒・技術クレンジング	ポイントクレンジングとハンドクレンジング手順W①②・拭取り	7~10	
	浴衣の着付け	浴衣着付け		
6	皮膚の生理と構造	ポイントクレンジング、ハンドクレンジング・ディープクレンジングW①②	11~16	
	着付け検定対策	着付け検定対策		
7	マッサージ理論・実習	マッサージ手順確① クレンジングからマッサージまで相モデル	17,18	
	着付け検定対策	着付け検定対策		
9	実習・マスク剤	マッサージ手順② クレンジングからマッサージまで相モデル	19~22	
	着付け	長襦袢着付け		
10	カウンセリング	クレンジング～マスクの塗布手順確認実習通し①②	23~30	
	着付け	留袖着付け		
11	エステ検定対策	エステ検定対策実習相モデル①②	31~36	
	着付け	留袖着付け		
12	エステ検定対策	エステ検定対策実習相モデル③④	37~42	
	着付け	留袖着付け		
1	機器・フェイシャルケア	全体通して実習・機械を使って実習	43~48	
	着付け	袴着付け		
2	機器・フェイシャルケア	全体通して実習・機械を使って実習	49~60	
	着付け	振袖着付け		
教科書	美容技術理論2・SBSエステ検定3級テキスト、着付け検定3級テキスト			
使用教材	エステティックの道具一式、着付け用具一式			
留意点	エステは各々の肌の状態により、相モデルが出来ない場合がある。着付けは、2学期後半から相モデルの場合有			

教科名		対象学年	開講学期	区分
総合技術		1年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
馬上 薫			講義及び実習	2(60)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有			
科目概要				
毛髪の概論、ヘアカラー、福祉美容など幅広く美容について学ぶ				
ヘアケアの知識が付き、ヘアケアマイスター検定プライマリーコースの資格取得をするだけの知識を身につける。福祉美容の業務について知識が付き、福祉理美容士の資格取得をするだけの知識と技術を身につけることができ、カラー剤について基礎知識が付き、カラー塗布ができるようになる。				
評価方法				
期末試験(筆記)、検定結果、授業の取り組み姿勢などから学期毎評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	ヘアケアマイスター	プライマリー 1章	1~6	
5		プライマリー 2章	7~12	
6		プライマリー 3章	13~20	
7		プライマリー 1~3章まとめ	21~24	
9		プライマリー検定対策	25~30	
10		プライマリー検定 ヘアカラー理論	31~38	
11	ヘアカラー	ヘアカラー理論・実践	39~44	
12	福祉美容	福祉美容概論	45~48	
1		福祉美容 かつらフィテイング	49~52	
2		福祉美容検定対策 体験	53~58	
3		福祉美容検定対策 体験	59,60	
教科書	ヘアケアマイスターブック、准福祉理美容士養成講座テキスト			
使用教材	ヘアカラー道具一式・かつらフィテイング道具一式・カット道具一式・カットウイッグ			
留意点	持ち物は必ず持ってくること			

教科名		対象学年	開講学期	区分
総合 選択A ヘアメイクコース		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
井原有美 / 高橋英里奈			実習	4(124)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有			
科目概要				
ヘアカラーリングや様々な美容技術を習得する。				
学習到達目標				
サロンワークに必要なカラーリング等基礎的技術ができるようになる。国家試験に合格できる技術や知識を身につけることができる。				
評価方法				
1学期、2学期を評価する。授業の出欠状況、授業時の取り組み方等で学期毎評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	ステージヘアメイク	スタイル別ヘアセット	1～10	
5		スタイル別ヘアセット、トータルコーディネート	11～20	
6		ヘアブリーチ概論、実践	21～32	
7		カラーリング、ホイルワーク	33～40	
9		メンズカット	41～50	
10		作品作り	51～66	
11		国試対策	67～80	
12		国試対策	81～94	
1		国試対策	95～108	
2		国試対策、基礎技術の振り返り	109～120	
3		国試対策	120～124	
教科書				
使用教材	美容用具一式、ブラシ ドライヤー ヘアアイロン セット・カット・カラー道具一式 ブリーチ剤 カラー剤			
留意点	授業時間内に終わらない場合があります			

教科名		対象学年	開講学期	区分
総合 選択B ネイルコース		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
峯 知世 / 田代恭也(AT)			実習	4(124)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有			
科目概要				
ネイル検定2級取得を目指し、理論・技術を習得する科目である。				
学習到達目標				
サロンワークに通用するネイルケア、リペア、チップ&ラップ、ネイルアートに関する技能や知識が身につくようになる。また、後期は美容師国家試験に合格できる技術や知識を身につける。				
評価方法				
1学期、2学期を評価する。平常点(授業の出欠状況、取り組み方、作品の仕上がりなど)で学期毎評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4	ネイル	道具、用材類説明、チップラップ手順、検定説明	1~10	
		スタイル別ヘアセット		
5		スタイル別ヘアセット、トータルコーディネート	11~20	
6		チップラップ・クリーンナップ(復習)	21~32	
7		ファイリング・クリーンナップチップラップ・カラーリング・アート	33~40	
9		ネイリスト検定2級対策(通し練習)	41~50	
10		ネイリスト検定2級対策(通し練習)	51~66	
11		国家試験対策	67~80	
12		国家試験対策	81~94	
1		国家試験対策	95~108	
2		国家試験対策、技術の復習	109~120	
3		国家試験対策	120~124	
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック			
使用教材	ネイル用具一式、美容用具一式			
留意点	モデルハンドを使用しての授業が基本ですが、相モデル実習を行うこともあります。			

教科名		対象学年	開講学期	区分
総合 選択C ブライダルコース		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
相馬優依 / 白石美和子			実習	4(124)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有り			
科目概要				
洋装・和装着付け、和装・洋装ヘアメイクの実践的な技術の習得を指導する科目である				
学習到達目標				
ブライダルサロン業務にあるヘア・メイク・着付けなどの業務の流れがわかるようになる。留袖や振袖の着付けができるようになる。全美連(SBS)着付け2級検定が取得できる。また、美容師国家試験に合格できる技術や知識を身につけることができる。				
評価方法				
1学期、2学期を評価する。評価内容は、授業での作品の出来映え、出席状況、授業態度などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	時数	
4	着付け技術	スタイル別メイク・ヘアセット(相モデル)	1～10	
5		スタイル別メイク・ヘアセット(相モデル)	11～20	
6		洋装花嫁・メイク・ヘアセット(相モデル)	21～32	
7		振袖着付け・ヘアセット(相モデル)	33～40	
9		和装花嫁着付け・メイク・ヘアセット(相モデル)	41～50	
10		留袖着付(相モデル) 検定対策	51～66	
11		留袖着付(相モデル) 検定対策 国家試験対策	67～80	
12		国家試験対策	81～94	
1		国家試験対策	95～108	
2		国家試験対策、技術の振り返り	109～120	
3		国家試験対策	120～124	
教科書	技術理論2			
使用教材	タオル、足袋、メイク用具、ヘアセット用具等美容用具一式			
留意点	基本相モデルです。必ずモデルと技術者の両方をやります。水化粧(首、襟足含)有			

教科名		対象学年	開講学期	区分
総合 選択D エステティックコース		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
松田 孝子			実習	4(124)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として勤務経験有。フェイシャル業務の経験有			
科目概要				
サロンで施術可能な程度の知識及び技術の習得をする				
学習到達目標				
SBSエステ検定2級資格取得をするだけの知識と技能を身につけることができる。また、美容師国家試験に合格できる技術や知識を身につける。				
評価方法				
試験、授業の出席状況、持参品、授業の受講態度などから評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容		回数
4	エステティック	道具、用材類の説明 エステティック概論、機器概論		1～10
		トータルコーディネイト		
5		トータルコーディネイト		11～20
6		マッサージ概論 健康な皮膚の条件、肌分析		21～32
7		マッサージ手技の練習・期末試験筆記・実技		33～40
9		クレンジング～仕上げの通し練習・カウンセリング		41～50
10		通し練習・カウンセリング・脱毛		51～66
11		ローテーションで練習・期末試験筆記・実技		67～80
		国家試験対策		
12		国家試験対策		81～94
1		国家試験対策		95～108
2		国家試験対策、技術の復習・脱毛		109～120
3		国家試験対策		120～124
教科書	SBSエステ2級テキスト			
使用教材	エステ用品一式、美容用具一式			
留意点	相モデルの授業			

教科名		対象学年	開講学期	区分
選択S		2年	通年	選択
担当教員			授業方法	単位数(時間数)
清名 直子			実習	2(62)
実務経験	実務経験内容			
有	美容師として美容室勤務経験有り			
科目概要				
ステージメイク、ヘアセットなどトータルビューティー等様々な美容についての技術習得の他、 国家試験、コンクールで入賞できるように指導する				
学習到達目標				
各コンクールで入賞できるような技術を身につけることができる。ヘアショーなど様々なセット、メイクや薬剤実習ができるようになることや、国家試験に合格できる技術を習得することができる。				
評価方法				
授業の出席状況、受講態度、持参品などから評価し、60点以上合格とする。				
授業計画				
月	単元名	指導内容	回数	
4		編み込み、アップスタイル、ステージメイク	1～6	
5		編み込み、アップスタイル、ステージメイク	7～14	
6		パーマ薬剤実習	15～20	
7		パーマ薬剤実習	21～24	
9		薬剤実習、スタイリング、試験対策	25～30	
10		薬剤実習、スタイリング、試験対策	31～38	
11		国家試験対策	39～46	
12		国家試験対策	47～50	
1		国家試験対策	51～54	
2		国家試験対策、パーマ実習	55～60	
3		国家試験対策	61,62	
教科書	技術理論1, 2			
使用教材	美容用具一式			
留意点	積極的に自主練習を行う。授業時の取り組み姿勢も評価に含む			